



Contents

会長室から、こんど～です

経営まめ知識

いまさら聞けない相続税の仕組みシリーズ

11

2019 Vol.192

たいせい通信のメール配信をいたします。
ご希望される方は、下記のメールアドレスに、件名を【たいせい通信メール配信希望】とし、
お名前、会社名、電話番号を明記の上、送信ください。

info@taiseikeiei.co.jp



大成経営コンサルティンググループは、財務会計総合コンサルタント業として、
企業経営に関するあらゆるご相談にワンストップで対応しております。

- ◆(株)大成経営開発・・・財務会計総合コンサルティング <http://www.taiseikeiei.co.jp>
- ◆(株)大成財産コンサルタンツ・・・相続相談・終活相談・資金調達運用
会社売買・生命保険損害保険 <http://www.fzc-souzoku.com>
(九州相続センター) 不動産・営業支援代理店業
- ◆エルアコンサルティング(株)・・・生命保険、損害保険 <https://elaa.co.jp>
- ◆(株)大成アフェクション・・・居宅介護支援、通所介護事業
- ◆(株)大成グローバルトレーディング・・・商社、貿易業務
- 大成経営総合事務所

清永税理士事務所・飛石税理士事務所・徳留税理士事務所・浦野税理士事務所・高木社会保険労務士事務所・竹馬社会保険労務士事務所・社会保険労務士あきおか事務所・おかもと社会保険労務士事務所・いしはら社会保険労務士事務所・的場土地家屋調査士事務所・行政書士法人エド・ヴォン

(株)大成経営開発 統括室発行 Tel : 096-377-1101 Fax : 096-377-1114

会長室から、こんど～です

朝晩冷え込むようになり、早いもので今年もあと2か月となりました。

本当にあっという間に過ぎる日々の中、私にも年金手続きのお知らせがきました。女性は61歳の誕生日の3か月前に送られてきます。これを見るとなんか本当に年を取ったんだなと実感します。

とりあえず手続きはします。明日どうなるかわからないのでもらえるものはもらっておきましょう。

さて今月はタイトルがとてもユニークな本のご紹介です。

《肩書「オレ」で生きていけ!》 著者は元船井総研の執行役員だった唐土新市郎さんです。

何回かセミナーで話を聞いたことがあります。

この本はキャリア3年でいつでもどこでも「自分で稼げる力」を身につける。内容は、まさに今組織の時代から個人の時代へと移り変わっている中、毎日ワクワクして働くためには「会社に頼らず生きる」だそうですよ。

常に独立心を持ち、いざというときには自分の看板で世間と渡り合い生きていく、そんな「個人のサバイバル能力」が求められていると初めに書かれています。

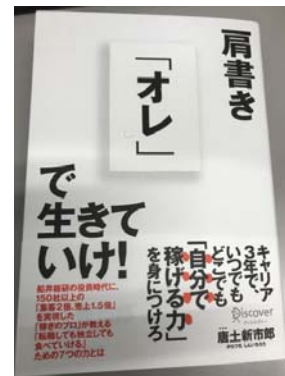
先日ある有名企業に勤務されている方が、働き方改革により残業が減り有休が増え収入が減ったので、副業OKなので副業しようと思うけど税金はどうなるのかと相談がありました。

まさに個人の看板で稼いでいくではないかと思えます。

この本で言っているのは会社に頼らず生きていけるようになれ。もしかしたら会社が倒産するかもしれない。などそうだなと納得することが書かれています。オレで生きていくための必須のスキル7つです。

- ①スタンスチェンジカ（まず、意識を変えろ!）
- ②行動力（とにかく行動に移せ!）
- ③自頭力（自分の頭で考えろ!）
- ④セルフブランディングカ（自分をコンテンツ化しろ!）
- ⑤関係構築力（コミュニケーションの達人になれ!）
- ⑥メモカ（あらゆる体験を自分の血肉にしろ!）
- ⑦成長力（自分をアップデートさせろ!）

これを3年で身につけ肩書「オレ」で生きていけです。



この中で素直じゃないヤツは成長しない!と7章に書かれています。

会社で仕事をしていれば「え、その仕事オレ?」とか「自分には向いてない」とか色々ありますよね。自分が間違いを起こした時に素直に謝らない人もいますが、間違いを起こしても素直に謝れば、色々と教えてもらうことができます。向いてないと思っても言われたことはまずやってみることで。その素直さが伸びしろなんだ、**人の言うことは素直に聞く、自分で決めつけてせっかくの伸びしろを無駄にしてはもったいない**と書かれています。

本当にごもつともです。

これからの人に「この本をどうぞ読んでみてください」と薦めたくまりました。

そしてこれから来るであろう不景気な時代を自分で生きていく力を身につけて

「楽しく生きていきましょう」と言いたいと思います。

ありがとうございました。



(株)大成経営開発会長 近藤記

経営まめ知識：『会計とファイナンス』

今月は私の身を置いている世界の「会計」とその双子の兄弟と言われる「ファイナンス」について双子でありながら、まったく似ていないことについて話させて頂ければと思います。

会計の世界では、会社の状態をバランスシート（貸借対照表）で表現します。左側（借方）には企業が持っているもの（資産）が記載されます。企業が持っているものには、現預金・在庫・工場や機械・車両・ビルや土地のような不動産、パソコンやデスクのような備品まで、多くのものが含まれています。一方、右側（貸方）にはこれらの資産を手に入れるためのお金をどこから調達したかを記載することになっています。したがって、左側（借方）と右側（貸方）の金額は、常に同じ（バランス）でないとおかしいこととなります。また、会社がお金を調達するルートは、銀行等から借入するか（負債）、株主に株式を買ってもらうか増資するか（株主資本・純資産）のどちらかです。右側（貸方）は負債と純資産の2つに分かれます。

ただここで、疑問点が出てくるのですが、なぜM&Aで会社を買収する際の金額や企業価値は会社の資産の額と一致しないのでしょうか？

その理由は、会計では目に見えない価値（無形資産）を反映しません。ここでいう無形資産とは、ソフトウェアや借地権、電話加入権のことでなくブランド力、顧客基盤、独自のノウハウ、人材のことになります。銀座のブランド力を例にみますと、銀座のカフェは1杯1,000円以上するものがざらにあるそうですが、なぜ1,000円もするのでしょうか？会計的な見方は銀座は地価が高いからそのコストが上乗せされて1杯当たりの金額が高くなるという理論ではないでしょうか。

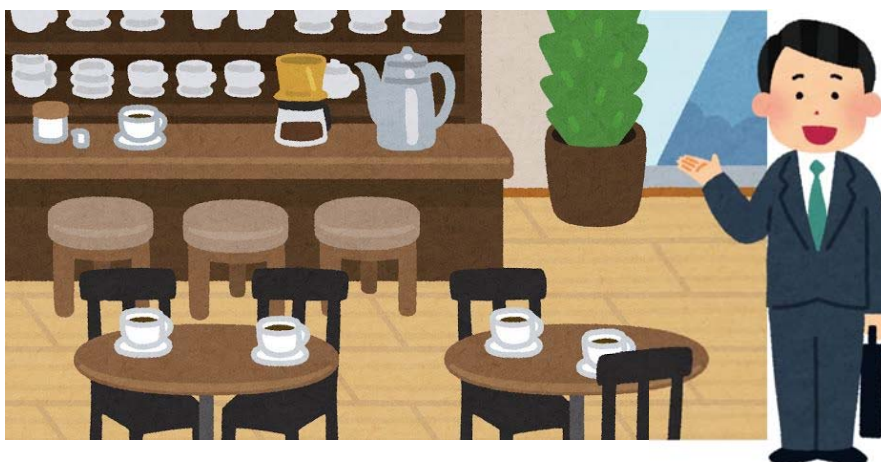
しかし、ファイナンスの考え方は反対で 銀座ではコーヒーの値段を高くしても売れる→高いコーヒーが売れるから他の場所よりも儲かる→お店が儲かるからビルのテナント料が高くなる→高いテナント料がとれる場所だから地価が高くなる→銀座というブランド力ということです。もしかしたら会計上の決算書のみで判断すれば地代家賃が高いことに捕らわれ地価が安価な場所へ移転することを決断してしまうかもしれません・・・

また、会計とファイナンスの相違点は価格と価値を見比べている限り本当の価値はわからず真っ当な意思決定はできないということもあげることが出来るかと思います。

前期の決算書と今期の決算書を見比べ数値が大きく変異していたとしてもその背景を見ないと判断を誤る可能性があります。例えば、2008年のリーマンショック後、世界中の株価が下落し投資家たちが慌てて手元の株式を売り払った中、ゴールドマン・サックスの優先株式と新株予約権を一手に引き受けた会社があります。その会社とは、ウォーレン・バフェット氏が率いるパークシャー・ハサウェイ社です。リーマンショック後、ゴールドマン・サックス社の株価が本来の価格よりも低くなり過ぎていると判断した同社は周囲が敬遠する中、買いを選択し約3,200億円の利益を上げました。

以上のことから決算書を見る上では、「会計」と「ファイナンス」の両輪で判断することが必要かと思います。

ぜひ一度、自社の「目に見えない資産価値がいくらあるのか」「価格と価値の比較」をされてみてはいかがでしょうか？きっと今とは全く違う姿になるのではないのでしょうか！





いまさら聞けない相続税の仕組シリーズ

「会社の運転資金」

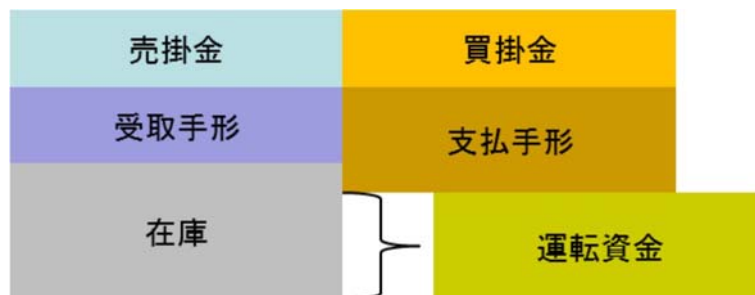
銀行から借入する時の資金用途には、【設備資金】と【運転資金】があります。

【設備資金】とは機械や車やOA機器などの買い取り資金に対して、【運転資金】とは商品、材料仕入や人件費等に充てる資金の事を言います。手持ち資金がない場合は、銀行から借入する事があると思いますが、今回は【運転資金の借り方】についてお話したいと思います。

【運転資金】とは？

所要運転資金または、正常運転資金と呼ばれています。

貸借対照表の数字で運転資金を表しますと下の図になります。



(所要・正常)運転資金=(売掛金+受取手形+在庫)－(買掛金+支払手形)

所要運転資金とは貸借対照表の数字の事で、正常運転資金とは売掛金の中の回収不能先(金額)や在庫の中の不良在庫(金額)を差し引いた実態の事を言います。

運転資金とは、すぐに現金化できる資産(左)から近々に支払うべく債務(右)を差し引いた、いわゆる「不足資金」という事です。この不足資金は一時的に不足する事ではなく金額の大きい月、小さい月があれ、**継続して不足する資金**となります。

会社からすれば、運転資金は多い時には多く借入が出来たら、資金繰りが円滑になります。もちろん借りたら、返さなければいけません。

ではこの運転資金を借入する時、長期、短期どちらで借りた方が良いか？

運転資金などの流動的な資金を調達する場合に便利な借入に「**当座貸越**」があります。**当座預金を持つ会社に対し、限度枠の中で自由に出し入れできる借入**です。非常にありがたい借入ですが、かなり審査が厳しい借入金です。当座貸越が出来ない会社でも、「**短期継続融資**」という借入があり、**返済期日時に融資をつなぎ返済期限を延長してもらえる資金**で、実質返済をしない借入になります。

短期資金を上手に活用し毎月の資金繰りを円滑にする事が、安心につながります。お付き合いのある銀行へご相談されてみては如何でしょうか。

 岡村泰



編集後記：秋から冬に季節が移り変わっていく11月です。秋の食材の代表といえばキノコですが、スーパーで売っているしめじやまいたけ、しいたけ、エリンギなどのキノコはほとんど工場で栽培されているんだそうです。だからあまり値上がりせずにお手軽に手に入る食材なんですよね。たしかに野菜が値上がりしてる時に横のキノココーナーの安定感にひかれて、しめじやエリンギなんかを多めに買うことがありますよね？さらに栄養豊富で低カロリーとは素晴らしいです(〇)